

「政策活動費」見えぬ使途

国民によるチェックと公正な政治活動を担保するための「政治資金収支報告書」で、使い道などがわからず不透明なのが、政党から政治家個人に渡る「政策活動費」などの支出だ。与野党の別なく活用されており、専門家らから見直しを求める声が高まる。

▼1面参照

自民、二階氏に6.3億円

政治資金報告書

26日に公開された自民党の政治資金収支報告書によると、2020年は党本部から12人の議員に計9億8330万円が支出されていた。うち6割以上にあたる6億3020万円が二階俊博幹事長（当時）に渡った。1年間、ほぼ毎月数千万円単位の入金があり、6月には1日で1億7千万円以上を受け取っていた。

第2次安倍政権以降の推移を見ると、自民党本部が支出する政策活動費は年によってばらつきがあるものの10億円台で推移。ピークだった17年には19億円を超え、うち約13億8千万円を幹事長の二階氏が受け取った。

政策活動費は政党から政治家個人に渡る資金。政治資金収支報告書では、政治団体の組織活動のための経費である「組織活動費」に分類される。政党から資金提供を受けた場合、政治団体は収支報告書の提出義務があるが、政治家個人には適用されない。使途を確認するすべはなく、最終的なカネの流れを第三者が検証できない不透明さから、政治資金の透明化の抜け穴との批判も招いてきた。

複数の党関係者によると支出は幹事長が差配し、使い道は自由。ただし、具体的な使途は党内でも極秘扱いとされている。選挙で当落が危ぶまれる立候補予定者に支給したり、他国の政府との交渉案件に携わった議員を支援するために渡されたりすることもあるという。関係者の一人は「人間関係を潤滑にするためにも必要なカネだ」と話す。

政策活動費を使っているのは自民党だけではない。「身を切る改革」を訴

え、政治資金の透明性を求めてきた日本維新の会も昨年、計4497万円を支出していた。政治団体「日本維新の会国会議員団」の報告書によると、受け取っていたのは馬場伸幸幹事長、浅田均政調会長、遠藤敬国会対策委員長の幹部ら。19年には馬場氏らに5865万円を支出していた。

この支出について、維新の創設者で元大阪市長の橋下徹氏は今月、ツイッターで繰り返し使途を明らかにするよう求めた。「非公開で法にのっとって適切に処理しているという態度は維新ではない。古い永田町住人そのものだ」と指摘。維新が領収書や使途の報告が不要な文書通信交通滞在費（文通費）の改革を打ち出している以上、「使い道を公開すべきだ」と強調している。

また立憲民主党の報告書によると、福山哲郎幹事長に3千万円が支出されたほか、社民党は「組織活動費」の名目で福島瑞穂党首ら4人に1480万円を支出していた。

維新代表、全面公開には否定的

政策活動費を使っているのは自民党だけではない。「身を切る改革」を訴

え、政治資金の透明性を求めてきた日本維新の会も昨年、計4497万円を支出していた。政治団体「日本維新の会国会議員団」の報告書によると、受け取っていたのは馬場伸幸幹事長、浅田均政調会長、遠藤敬国会対策委員長の幹部ら。19年には馬場氏らに5865万円を支出していた。

この支出について、維新の創設者で元大阪市長の橋下徹氏は今月、ツイッターで繰り返し使途を明らかにするよう求めた。「非公開で法にのっとって適切に処理しているという態度は維新ではない。古い永田町住人そのものだ」と指摘。維新が領収書や使途の報告が不要な文書通信交通滞在費（文通費）の改革を打ち出している以上、「使い道を公開すべきだ」と強調している。

また立憲民主党の報告書によると、福山哲郎幹事長に3千万円が支出されたほか、社民党は「組織活動費」の名目で福島瑞穂党首ら4人に1480万円を支出していた。

2020年の国会議員ら個人への「政策活動費」などの支出額
公明党、国民民主党、共産党、NHK党の該当はなかった。肩書は当時

自民党	政策活動費	うち二階幹事長に
		9億8330万円▶6億3020万円
立憲民主党		福山幹事長へ
		3千万円▶全額
日本維新の会		うち馬場幹事長に
		4497万円▶4280万円
社民党		うち福島党首に
		1480万円▶310万円
れいわ新選組		山本代表へ
		240万円▶全額

検証の仕組み必要

神奈川大学の大川千寿教授（政治学）の話
自民党幹事長にわたる巨額のカネは、権力の大きさを感じさせるが、具体的な使途は分からない。カネがモノを言うことを受け止められても仕方なく、こうした不透明な資金の存在は時代遅れだ。「政策活動費」と銘打っている以上、本来に政策の充実に役立っているのかを国民がチェックできるような、使い道を検証できる仕組みづくりが必要だ。

これに対し、大阪府知事

（安倍龍太郎、保坂晃）